

4 度目の春の様子

■ 蒲生干潟の現状

震災から4度目の春を迎えた。アサリをとる人の姿が見られるのは震災前の姿が戻ってきた一例かもしれない。毎年、少しずつだが蒲生干潟の環境は回復してきているように思われる。今年度、さらに豊かだった蒲生干潟の姿に近づくことを期待している。

■ 成長の遅いイシガレイの稚魚

イシガレイは毎年春に干潟内に侵入・成長し夏頃に外海へと移動しており、それは震災後も変わらない姿であった。

過去2年はFig. 1の黄色部分で採集することができたが、今年は他の場所も含め干潟内では全く採集できなかった。採集できたのはFig. 1の赤色部分(Fig. 2 Fig. 3)で、Table. 1にあるように平均全長2.22cmとこれまでで最も小さいものであった。今回採集したイシガレイで最小の個体は1.5cmで、これは網の目からこぼれ落ちる大きさである(Fig. 4)。過去2年と比べイシガレイの成長は遅れており、干潟内で採集できなかったのはイシガレイ稚魚が網にかからないほど小さいことが考えられる。来月以降、稚魚の成長の様子や干潟内への移動を意識して調査に取り組みたい。

採集日	採集数	平均全長
2012年4月17日	24	2.79cm
2013年4月18日	8	3.25cm
2014年4月19日	9	2.22cm

Table. 1 イシガレイの採集数と平均全長

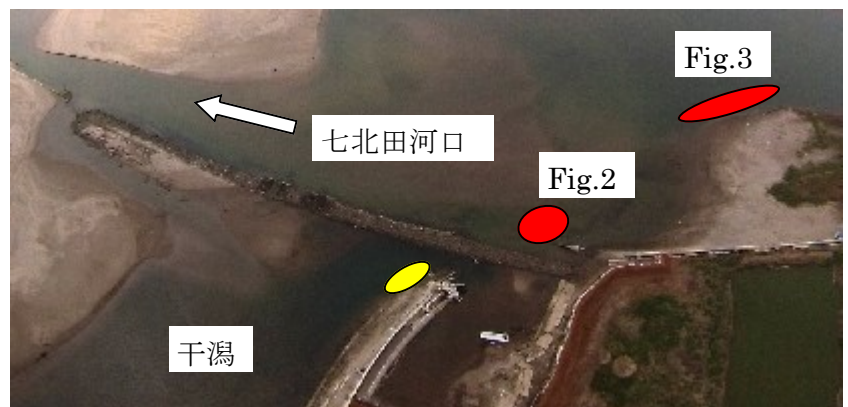


Fig.1 蒲生干潟河口域



Fig.2 イシガレイ採集地点①



Fig.3 イシガレイ採集地点②

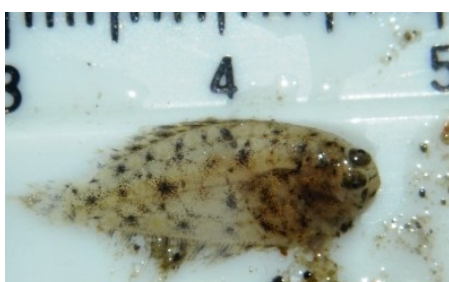


Fig.4 イシガレイ稚魚